

桃の木幼稚園 学校関係者評価委員会

令和7年度 第1回 議事録

1.日 時 令和8年3月2日(月) 15:00～17:00

2.場 所 桃の木幼稚園 きつず棟3階 会議室

3.内 容

15:00～ 学校関係者評価委員ご紹介

理事長がまず挨拶し、年度末のお忙しい中ご出席の御礼をのべ、各委員をご紹介した

15:05～ 学校法人ならびに幼稚園概要

園長より資料①～⑩について説明

15:15～ 令和6年度自己評価について

園長より自己評価の項目の説明し、自己評価集計表についての説明と反省を行った

15:25～ 本年度幼稚園行事

資料(カラー写真入り)をもとに理事長より令和7年度の行事の説明を行う

15:40～ 情報交換

○神戸市立桃山台中学校 水口校長先生よりのご意見

公開保育ありがとうございました。幼児たちがしっかりと挨拶してくれ、嬉しかったです。今年度も中学2年生のトライやるではお世話になりました。また昨年引き続き、中学3年生の家庭科の授業「プレ親」の活動で「ふれあい体験学習」を行うことができました。中学生は笑顔で園児達と接していて、3年生の新たな一面を見ることができました。ぜひ来年度も「ふれあい体験学習」や地域連携、研修等一緒に取り組んでいければよいと考えます。

中学校も少子化で生徒が減少し、来年度は1年生が3クラス、2年生も3クラス、3年生が4クラスとなります。クラスが減ると先生も減り、今話題のコベカツも今年の9月からスタートとなります。保護者からは不安の声が出ているそうです。部活に入らない生徒が地域に溢れるかもしれません。何かありましたら、お声かけください。

○神戸市立つつじが丘小学校 安若校長先生よりのご意見

中学校も少子化ですが、つつじが丘小も来年度は、1年は29名の1クラス、2・3年も1クラス、4・5年が2クラスです。

昨年度からつつじが丘小も指定校となり、児童音楽会では、年長児さんが見に来てくださり、生徒達も大いに励みになりました。園の運動会の予行やクリスマス音楽会を見に来てさせて頂き、大変勉強になりました。そして先月の学校のオープンスクールの際には幼稚園の先生方に来て頂くことができました。来年も引き続き幼小の連携をしっかりと行っていけたらと思います。

小学校は全員新しいタブレットになり、体験することがどんどん減りました。園の様に実体験することは大切なことだと思います。

○神戸市立桃山台児童館 牟田館長よりのご意見

学童保育の人数は増え、来年度は桃山台児童館で87名(内1年生 20名)、つつじが丘小内のコーナーで46名、下畑台小内のコーナーで36名の予定です。今年度4月からつつじが丘小に「本のひろば」を設置し、子ども達の居場所作りを行いました。来年度からは、下畑台小にも「絵本のひろば」を設ける予定です。コベカツもそうですが、子ども達の居場所作りをしていき、地域の方々と共に子ども達を見守っていきましょう。

○桃の木幼稚園 卒園生保護者 阿波様よりのご意見

一昨年に次男が卒園させて頂き、今は幼稚園でバスの添乗を週1回お手伝いさせて頂いています。桃の木に通っている子ども達から名前を覚えてもらい、とてもかわいい園児達と触れ合い、仲良くさせて頂いています。少子化やタブレット化等、世の中が変わっていく中で、コロナ禍後、なくすものやなくしても形を変えて残していくもの等ありましたが、桃の木幼稚園では体験をたくさんさせて頂き、ありがたかったです。近くに住んでいますので、これからもみんなで住みよい地域にしていけるよう協力していきたいです。

○桃の木幼稚園愛児会 学年代表 清水様よりのご意見

今年度年長の子どもがおり、先日、今年から復活した給食参観に来させて頂きました。行事ではない日常の子ども達の姿を見ることができ、ありがたいです。小学校でもミシン体験実習を見学させて頂いたり、林間学校の様子を100枚もホームページで見られる様にして下さったり、開かれた学校・園となっていくのがありがたいです。引き続き、今後も幼小の連携をしっかりと頂きたいです。

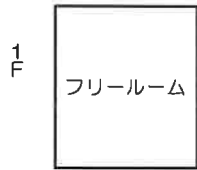
又、小5の姉もお世話になり、桃の木幼稚園は「一番にこども達の事」を考えてくださり、行事も最善の方法を工夫して下さり、たくさんの思い出ができました。もうすぐ卒園となりますが、感謝の気持ちでいっぱいです。子ども達のために何かお手伝いできることがあればしていきたいです。

16:10～ 公開保育

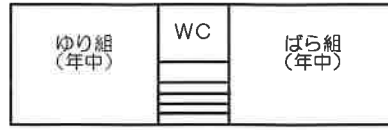
委員会終了後各自、園内を見学して頂き、順次解散する

きつすく棟園内図

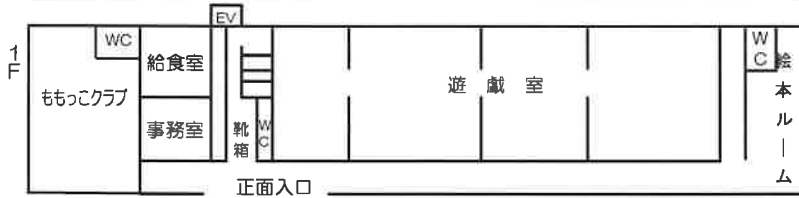
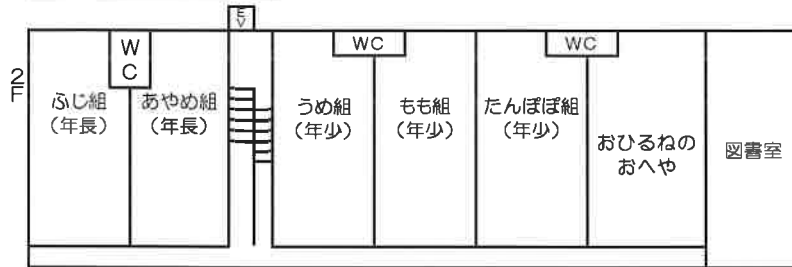
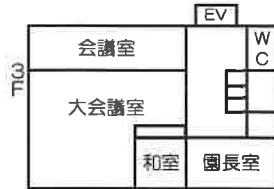
新 館



2 F



本 館



令和7年度末 自己評価

クラス() 氏名()

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:あまり達成できていない 1:達成できていない

| 評価分類 | | 内容 | 評価 | | | | |
|-------------------------------------|-------|--|-------------------------------------|---|---|--|--|
| I 保育の 計画性 | 1 | 園の教育理念・教育目標の理解 ○園の教育理念や教育目標を理解する ○園の教育理念に基づいて教育目標について園長や保育者と話し合う | | | | | |
| | 2 | 幼稚園教育要領の理解 ○幼稚園教育要領を読み、園長や保育者と話し合って理解に努める | | | | | |
| | 3 | 教育課程の編成 ○園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成する ○園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる | | | | | |
| | 4 | 指導計画の作成 ○指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する ○指導計画は幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるような順応性のあるものにする | | | | | |
| | 5 | 環境の構成 | ○安全で清潔感のある環境を構成する | | | | |
| | | | ○幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する | | | | |
| ○幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする | | | | | | | |
| ○遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意する | | | | | | | |
| ○楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する | | | | | | | |
| ○幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成する | | | | | | | |
| 6 | 評価・反省 | ○幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示をする | | | | | |
| | | ○園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成にいかす | | | | | |
| | | ○幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする | | | | | |
| | | ○季節の変化に応じた環境の構成をする | | | | | |
| | | ○異年齢の幼児が自然に交流できるような環境の構成をする | | | | | |
| | | ○自分の保育についての評価・反省をいくつかの観点から行う ○自分の保育を評価・反省することで、次の保育にいかす | | | | | |
| II 保育の在り方、 幼児への対応 | 1 | 健康と安全への配慮 ○朝の登園時には特に視診を大切に、子どもの体調が悪くないかを確かめる ○けがや事故に気をつけ、万一、事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に見てもらするなど適切な処置を行う ○園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について幼児と一緒に考える ○園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る | | | | | |
| | | | 2 | 幼児理解 ○一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配る ○幼児の話をよく聞き、幼児の思いを受けとめる ○個々の幼児の発達の姿や課題について、見直しをもって理解する ○幼児同士のかかわりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する ○幼児たちが今、興味や関心をもっていることを知る ○幼児の理解のために家庭との連携をとる ○幼児の姿を多面的に捉えるように心がける | | | |
| | | | | | 3 | 指導とかかわり ○幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する ○幼児が理解しやすいような、正しい言葉を使う ○幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしない ○善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培ううえでのモデルとなるように心がける ○幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がける ○幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする ○幼児が遊びを深めていくための、適切な援助をするように心がける ○幼児の年齢に応じた援助の仕方を工夫する ○幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする ○幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける ○幼児を無視したり、体罰を加えることはどのような場合もしない | |
| | 4 | 保育者同士の協力・連携 ○クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応をするように心がける ○クラス的环境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換し合う | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------------------|--|---|--|---|---|--|---------------|
| III 保育者としての 資質と能力 | 1 | 専門家としての能力・姿勢・義務 ○幼児の個性や個性を把握し、幼児の考えや感じていることを理解する ○保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努める ○保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がける ○幼稚園には自分自身のプライベートな生活をもち込まないようにする ○幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにする ○服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がける ○職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る ○園の重要書類は持ち出さない ○締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守る | | | | | |
| | | | 2 | 組織の一員としての在り方 ○教職員全員で一つのチームであることを自覚する ○他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるよう努める ○子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をする ○当番や役割による仕事は確実に実行 ○園や保育者に関することについては、軽はずみに他に話さない | | | |
| | | | | | 3 | 保育の楽しみ・喜び ○幼児の成長を自分の喜びと感じる ○幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じる | |
| | | | | | | | IV 保護者への対応 |
| | | | 2 | 守秘義務の遵守 ○保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従う ○個々の幼児や保護者、家族の情報は口外しない | | | |
| | | | | | 3 | 対応上のマナー・心がまえ ○日常生活において、その場にあった正しい言葉を使うようにする ○電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がける ○保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する | |
| V 地域の自然や 社会とのかかわり | 1 地域の自然・人々とのかかわり ○地域の自然と親しくあいさつや会話を交わすように心がける ○地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める ○地域の自然や機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をする | | | | | | |
| | | 2 | 小学校との連携 ○小学校の教育内容について理解するよう努める ○地域の小学校の行事や公開授業に関心をもつ | | | | |
| | | | | 3 | 子育ての支援と地域への開放 ○子育ての支援や地域開放について具体的な形や内容を理解する ○子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合う | | |
| VI 研修と研究 | 1 | 研修・研究への意欲・態度 ○研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加する ○自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行う ○自分の保育の在り方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する | | | | | |
| | | | 2 | 保育者としての専門性に関する研修・研究 ○幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行う ○記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行う ○教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う ○保育記録に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行う ○幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修・研究を行う ○保護者への対応に関する研修・研究を行う ○地域社会との交流に関する研修・研究を行う ○保育者同士の協力・連携に関する研修・研究を行う | | | |
| | | | | | 3 | 今日的課題に関する研修・研究 ○アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解する ○障がいのある幼児の理解と対応について研修する ○預かり保育や子育ての支援について研修する ○幼小連携の必要性や具体的方策について研修する ○危機管理の必要性と対応について研修する | |